

## 放射線業務従事者のための教育訓練講習会プログラム詳細

### 講習の種類と受講できるコースについて

講習の種類	講義できるコース
1.全般向け> 新規教育 (テキスト付)	標準コース、非密封コース、密封コース、発生装置コース
2-1.全般向け> 再教育 (テキスト付) 2-2.全般向け> 再教育 (テキストなし)	標準コース、非密封コース、密封コース、発生装置コース
3.医療向け> 新規教育 (テキストなし)	標準コース
4.医療向け> 再教育 (テキストなし)	標準コース

※ テキスト：[改訂版 よくわかる放射線・アイソトープの安全取扱いー現場必備！ 教育訓練テキストー](#)

※ 「2-1.全般向け> 再教育 (テキスト付)」と「2-2.全般向け> 再教育 (テキストなし)」の違いはテキスト (参考図書) の有無です。講義内容は同じです。

【全般向け】 特定のジャンルは定めず取扱等業務に従事する方全般を対象とした内容です。

主に「[改訂版 よくわかる放射線・アイソトープの安全取扱いー現場必備！ 教育訓練テキストー](#)」の内容について講義を行います。

※講習内容の目安です。上記テキストの項目を網羅するわけではありません。

【医療向け】 医療機関で取扱等業務に従事する方を対象とした講義内容です。

主に医療分野における放射線の基本的な内容や各医療機関の予防規程を理解する上で必要な内容 (別紙参照) について講義を行い、各医療機関で実施する必要のある教育訓練の負担の軽減をすることを目的としています。各医療機関の実態 (個別の利用方法や所有する医療機器等) を反映した講義内容ではありません。そのため、各医療機関の実態に合わせて、各医療機関で追加の教育訓練を実施していただければと思います。

【新規教育】 放射線業務従事者にあつては初めて管理区域に立ち入る前、取扱等業務に従事する者で管理区域に立ち入らない者にあつては取扱等業務を開始する前に行う教育訓練

【再教育】 管理区域に立ち込んだ後、または取扱等業務を開始した後に、前回の教育及び訓練を行った日の属する年度の翌年度の開始の日から 1 年以内に行う教育訓練

## 【医療向け】の講義内容について

(別紙)

新規教育は主に以下の内容について講義します。

再教育は以下の内容を再教育向けに抜粋した内容について講義します。

<p>○放射線の人体に与える影響</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・放射線障害の歴史</li><li>・放射線の DNA および細胞への作用</li><li>・放射線の人体（個体）への作用<ul style="list-style-type: none"><li>身体的影響と遺伝性影響</li><li>早期影響と晩発影響</li><li>組織反応</li><li>臓器・組織による放射線感受性の違い</li><li>確率的影響</li></ul></li><li>・自然放射線被ばくと医療被ばく</li><li>・低線量・低線量率被ばく</li></ul>	<p>○放射性同位元素等又は放射線発生装置の安全取扱い（放射線治療分野）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・放射性同位元素等又は放射線発生装置の安全取扱い</li><li>・放射線発生装置の構造</li><li>・放射線発生装置の日常運用</li><li>・放射線発生装置の緊急時対応</li><li>・密封放射性同位元素の取扱</li><li>・RALS 線源格納と緊急事態の対処法</li><li>・余剰線源と緊急事態の対処法</li><li>・管理区域立ち入り</li><li>・放射化物の取扱（6MV 超の場合）</li></ul>
<p>○放射性同位元素等又は放射線発生装置の安全取扱い（核医学分野）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・放射線の利用<ul style="list-style-type: none"><li>核医学検査と核医学治療</li></ul></li><li>・放射線及び放射性同位元素の基礎<ul style="list-style-type: none"><li>放射性同位元素</li><li>放射線の測定</li></ul></li><li>・安全取扱いの実践<ul style="list-style-type: none"><li>非密封線源の取り扱い</li><li>密封線源の取り扱い</li></ul></li></ul>	<p>○放射線障害の防止に関する法令</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・放射線利用三原則</li><li>・放射線規制の法律</li><li>・管理区域</li><li>・放射線業務従事者</li><li>・教育訓練</li><li>・健康診断</li><li>・従事者の線量限度</li><li>・被ばくの測定と報告書の見方</li><li>・予防規程の概要</li><li>・緊急時の対応</li></ul>

## 各コースの講義課目の内訳

### 【全般向け】

項目と課目内訳	講習の種類とコース							
	1.全般向け> 新規教育 (テキスト付)				2-1.全般向け> 再教育 (テキスト付) 2-2.全般向け> 再教育 (テキストなし)			
	標準 コース	非密封 コース	密封 コース	発生装置 コース	標準 コース	非密封 コース	密封 コース	発生装置 コース
1.「放射線の人体に与える影響」	30分							
2.「放射性同位元素等又は放射線発生装置の安全取扱い」	3時間	2時間	2時間	2時間	1時間	20分	20分	20分
内訳：安全取扱い（基礎）	(1時間)				-			
安全取扱い（計測）	(30分)				-			
安全取扱い（非密封）	(30分)	(30分)	-	-	(20分)	(20分)	-	-
安全取扱い（密封）	(30分)	-	(30分)	-	(20分)	-	(20分)	-
安全取扱い（発生装置）	(30分)	-	-	(30分)	(20分)	-	-	(20分)
3.「放射線障害の防止に関する法令」	1時間							

※ コースにより、安全取扱いの内容が異なります（内訳参照）。

※ 「2-1.全般向け> 再教育（テキスト付）」と「2-2.全般向け> 再教育（テキストなし）」の違いはテキスト（参考図書）の有無です。講義内容は同じです。

※ 「放射線障害の防止に関する法令」の課目には、事業所ごとに異なる放射線障害予防規程の内容は含みません。

## 【医療向け】

項目と課目内訳	講習の種類とコース	
	3.医療向け> 新規教育	4.医療向け> 再教育
	標準コース	標準コース
1.「放射線の人体に与える影響」	30分	15分
2.「放射性同位元素等又は放射線発生装置の安全取扱い」	1時間	30分
内訳：安全取扱い（核医学分野）	(30分)	(15分)
安全取扱い（放射線治療分野）	(30分)	(15分)
3.「放射線障害の防止に関する法令」	30分	15分

※ 「放射線障害の防止に関する法令」の課目には、事業所ごとに異なる放射線障害予防規程の内容は含みません。